

— SPORTS DX / AI SOLUTION

# 撮るを収益に。 スポーツを映像資産へ。



(開示事項の経過) 株式会社NTT Sportictとの業務提携に関するお知らせ | 補足資料

世界で利用される  
Pixellot AIカメラ

80カ国

対応競技  
サッカー・バスケ・野球ほか

16競技

POWERED BY  NTT Sportict

# AIカメラ×スポーツ映像配信サービス「STADIUM AI」を 本格展開（サービス開始）

2026年1月23日に公表した株式会社NTT Sportictとの業務提携に基づき、サービスブランド「STADIUM AI」として本格展開を開始します。  
運営は当社連結子会社・株式会社ジェリービーンズマーケティングラボが担います。

## 実績あるスポーツDX基盤「NTT Sportict」 × グループのAI・メディア基盤

NTT Sportictの技術基盤と、JBGの営業・広告マッチング・メディアネットワークを掛け合わせ、地域スポーツ映像を“収益コンテンツ”かつ“広告媒体”へ。



### SERVICE LAUNCH

#### サービス開始

業務提携の実証・準備を経て、提供体制・収益モデルを整備。本格展開（サービス開始）の段階へ。



### THE SERVICE

#### STADIUM AIとは

AIカメラで無人・低コストにスポーツ映像を自動撮影・配信・分析。16競技に対応。



### AI PORTFOLIO

#### JELLY BEANS AI SOLUTION

グループのAI関連サービス群の中核として位置づけ。AI戦略の一翼を担う。

# この資料でわかること

投資家・ステークホルダーの皆様へ — 本件の全体像

## SERVICE & SCHEME

### サービスと体制

STADIUM AIの概要・仕組み・運営体制と、サービス開始に至る経緯を整理します。

## MARKET & TARGETS

### 市場・活用シーン

製品・対応競技、ターゲット顧客、スポーツDX市場という追い風を示します。

## REVENUE & RESULTS

### 収益モデル・実績

4つの収益の柱と、配信・常設導入の参考実績を紹介します。

## AI STRATEGY & OUTLOOK

### AI戦略・今後

JELLY BEANS AI SOLUTIONの位置づけ、ロードマップ、今後の見通しを示します。

# 本開示の概要

AIソリューション「STADIUM AI (JELLY BEANS AI SOLUTION)」のサービス開始

項目	内容
発表事項	AIソリューション「STADIUM AI (JELLY BEANS AI SOLUTION)」のサービス開始（本事業の本格展開）
サービス名	STADIUM AI
運営主体	株式会社ジェリービーンズマーケティングラボ（当社連結子会社）
基盤・技術提携先	株式会社NTT Sportictのスポーツ映像プラットフォーム（AIカメラ基盤）をOEM展開
提供領域	AIカメラを活用したスポーツ映像配信・スポーツDXソリューション
主な対象	スポーツチーム / 大会・競技団体 / スポーツ施設・スクール / 行政・自治体
本格展開時期	2026年7月（サービス開始）
業績への影響	2027年1月期の業績に与える影響は精査中（必要が生じ次第、速やかに開示）

※ 本資料は適時開示「AIソリューション『STADIUM AI (JELLY BEANS AI SOLUTION)』のサービス開始に関するお知らせ」の補足を目的としています。

# 提携先 株式会社NTT Sportict の概要

スポーツ映像プラットフォーム（AIカメラ基盤）の提供元 – 技術・配信基盤を担う

項目	内容
商号	株式会社NTT Sportict（エヌ・ティ・ティ スポルティクト）
所在地	本社：大阪府大阪市都島区東野田町4丁目15番82号 NTT西日本 QUINT BRIDGE 3階 東京拠点：東京都中央区日本橋大伝馬町12-2 セイショウ日本橋ビル8階
代表者	代表取締役 中村 正敏
資本金	1億円
設立	2020年4月1日
株主	NTT西日本株式会社 78.3% / 朝日放送グループホールディングス株式会社 21.7%
事業内容	AIカメラ販売 / 映像ライセンス獲得・映像配信 / 広告・放映権・動画コンテンツの制作・販売 等
当社との関係	資本関係・人的関係・取引関係および関連当事者に該当する事項はありません

\* 当社は2026年1月23日にNTT Sportictと業務提携を締結しています。上記は同社提供資料および公開情報に基づき記載しています。

# サービス開始に至る経緯

ジェリービーンズグループが展開するAIソリューションの一つとして — 業務提携 → 実証・準備 → 実運用起点の確立 → 本格展開へ

2026.01

## ALLIANCE

### NTT Sportictと業務提携

スポーツDX領域で業務提携を締結（提携開始 2/2）。実証・準備を開始。

2026.04

## VISION

### AIカメラ1万台プロジェクト公表

5社連合「ZERO Alliance」を当社が統括。2030年に向けたストック型収益基盤構想を提示。

2026.04

## GENERATIVE AI

### Photoroid Musicリリース

グループのAIソリューションとして、AIを活用した音楽生成サービスを提供開始。

2026.07

## LAUNCH

### STADIUM AI 本格展開

提供体制・収益モデルを整備し、サービスブランド「STADIUM AI」としてサービス開始。

# STADIUM AIとは 無人・低コストで、撮る・配信する・分析する

NTT Sportictのスポーツ映像プラットフォームを基盤に、AIカメラ（Pixellotシリーズ）で本格的なスポーツ映像を自動化

01

## 無人で本格映像

AIが自動でカメラワーク・編集。カメラマン不要で低コスト運用。

02

## 自動で配信

アーカイブ配信に加え、機種に応じてライブ配信にも対応。

03

## パノラマ記録

逆サイドも同時記録。視点移動・ズームで分析に活用可能。

04

## 遠隔で操作

スマホ/PCから遠隔で撮影開始。常設運用でも負担を最小化。

05

## 映像を分析

自動タグ付け・ハイライト生成でチーム強化・スカウティングに直結。

「撮るだけ」で終わらせず、**撮影** → **配信** → **収益化** → **分析**までを一気通貫で提供

# 仕組みと運営体制 — 技術はNTT Sportict、事業はJBグループ

実績あるプラットフォームを活用し、初期リスクを抑えながらスピーディに立ち上げ

## NTT Sportict

TECHNOLOGY — 基盤

- スポーツ映像プラットフォーム・AIカメラの提供
- 撮影・配信の技術基盤を担当
- 自治体向けソリューションも提供

## JBマーケティングラボ

OPERATION — 運営主体

- 当社連結子会社・事業主体
- 事業展開・営業・運用統括
- ブランディングの中核

## ジェリービーンズグループ

GROUP — グループ基盤

- 営業・メディアネットワーク
- 広告・スポンサーマッチング
- グループ事業とのシナジー

NTT Sportictの実績ある技術基盤 × グループの営業・メディア・広告網。  
両社の強みを掛け合わせ、導入から収益化まで一気通貫で実現。

# 製品ラインナップ — 用途で選べるAIカメラ

可搬（大会スポット）と常設（施設設置）の両構成に対応



HIGH-END / LIVE

**S3**

3眼12K・LIVE対応の高画質モデル。放映・高精度撮影に。



BASEBALL

**DoublePlay**

2台切替の野球専用。打者・投手視点を切り替え。



PORTABLE

**AirNEXT**

簡単操作の可搬型。大会スポット・導入初期に最適。

\* 用途に応じて可搬・常設を組み合わせ構成できます。LIVE配信対応モデルもご用意。

# 対応競技

球技からコンタクト競技、アーバンスポーツまで幅広く対応（対応競技は拡大中） \*はFlexiの対応スポーツです。

サッカー

バレーボール

フィールドホッケー

ビーチバレーボール

卓球\*

マーチングバンド\*

バスケットボール

ラグビー

レスリング

野球

テニス\*

柔道\*

サーフィン\*

アメリカンフットボール

ハンドボール

体操

ソフトボール

ソフトテニス\*

剣道\*

アイスホッケー

フットサル

ラクロス

バドミントン\*

## Flexiとは

AIカメラ対象外競技の撮影や、スポーツ施設の多様なニーズに柔軟に応える映像ソリューション。柔道やテニスなど、固定アングルでの撮影が求められる競技に対応。現地にいなくても遠隔から配信設定ができます。

また、複数のコートと同時に撮影・配信し、視聴者が任意のコートを自由に選んで視聴できる環境も提供可能です。

\* 対応競技は拡大中で、シリーズ・機種により異なります。

# ターゲット・活用シーン

グループ内での実運用で確立した実績を起点に、需要層を同心円状に拡張する

## TEAMS

### スポーツチーム

練習・試合の自動撮影・配信。映像分析による強化と、選手・保護者・OBへの体験提供。

## EVENTS

### 大会・協会

複数面・複数日程の配信。運営効率化と視聴課金・写真販売による収益化、協会のPR資産化。

## FACILITIES

### 施設・スクール

常設導入による集客強化。会員費上乗せ・有償撮影・映像/DVD販売・施設ブランド向上。

## GOVERNMENT

### 行政・自治体「マチスポ」

映像化・情報発信・施設DX。シティプロモーション、関係人口創出、大会・合宿の誘致。

さらに **メディア・スポンサー** へ、配信映像を広告媒体として提供しマッチング収益を創出

# 収益モデル – 4つの柱で多面的に回収

単一収益に依存せず、フェーズ進行に伴いストック性の高い収益（広告・常設）へ比重を移す

**A**

## 機材導入・運用収益

撮影・配信・視聴課金・写真販売による直接収益。事業の現金を生む土台。

**B**

## 広告・スポンサーマッチング

配信映像の広告媒体化、地域・ナショナルスポンサー連携。ストック性が高くJBG最大の差別化領域。

**4**

つの収益の柱

比重は A → B / C / D へ。  
単発収益からストック型収益へ

**C**

## ソリューション横展開

導入支援・運用代行・映像分析支援（Vidswap/Clipper）等でLTVを最大化。

**D**

## 施設常設モデル

施設・スクールへの常設導入による継続収益（会員費上乘せ・有償撮影・映像/DVD販売・施設広告）。

# 過去導入実績 — 基盤プラットフォームの広がり

自治体・プロ・大学・メディアまで全国で採用。本事業の横展開（PHASE 2）における裏付け

01

## 自治体・公共施設

札幌市／熊谷市／大館市／別府市／徳島県／石垣市／志摩市／周南市／宮崎県／SAGAサンライズパーク 等

02

## プロ・実業団

群馬クレインサンダーズ／JR東日本ベッカード／シーホース宮崎 等

03

## 大学

亜細亜大学／慶應義塾大学 等

04

## スクール・施設・メディア

FC COLORZ／MIFA Football Park福岡／青森朝日放送／鹿児島放送 等

## 全国で実証済みの導入基盤 × 当社グループの横展開力

自治体・プロ・大学・地域メディアまで全国で採用。実績を当社の営業・メディア網で横展開（PHASE 2）

※ NTT Sportict のプラットフォーム導入実績。参考情報であり、本事業による実績ではありません。

# 大会配信の実例と参考実績

AIカメラによる大会のライブ配信事例と、視聴課金・写真販売の参考実績



— CASE - ライブ配信事例

## 「2025-2026 リーグHジュニアカップ」全6試合をAIカメラでマルチアングルライブ配信

- 日程・会場：2026年3月1日／和光市総合体育館（埼玉県）
- 配信：リーグH公式YouTube・全6試合・マルチアングル
- 使用機材：S3+Touch（AIカメラ×有人のハイブリッド）
- 付加価値：AI自動解析データを全出場チームへ提供し、ジュニア育成を強化

出典：株式会社NTT Sportict プレスリリース（2026年2月26日）

大会（バスケ）	規模	販売実績
埼玉県U12大会	4日・11面 / 62試合	視聴67・パック23・DL16
McDonald U12 冬季	1日・3面 / 14試合	視聴30・パック5・DL6
関東高校 新人大会	2日・8面 / 32試合	視聴61・パック28・DL5・写真53

## 市場環境 — スポーツDXという追い風

デジタル技術の進展を背景に、映像配信・データ活用・地域活性化のニーズが拡大



### スポーツDXの進展

映像配信・データ活用・ファンエンゲージメントの高度化が進み、スポーツDXの重要性が高まっている。



### 地域スポーツの映像化ニーズ

これまで映像化のハードルが高かった地域・アマチュアの試合を、低コストで撮影・配信するニーズが急拡大。

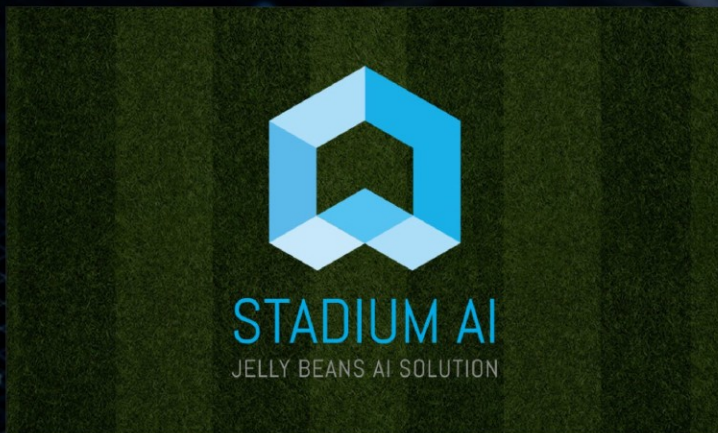


### 自治体DX・地域活性化

「マチスポ」を通じ、シティプロモーション・施設利活用・関係人口創出など自治体課題の解決に貢献。

# JELLY BEANS AI SOLUTION における位置づけ

エッジAI/生成AIを軸に、スポーツ・エンタメ・地域DXで価値を創出するグループAIサービス群



SPORTS × EDGE AI

## STADIUM AI 本サービス

AIカメラ（エッジAI解析）を活用したスポーツ映像配信・スポーツDXソリューション。



GENERATIVE AI

## Photoroid Music

AIを活用した音楽生成サービス。グループの生成AI領域を担う。

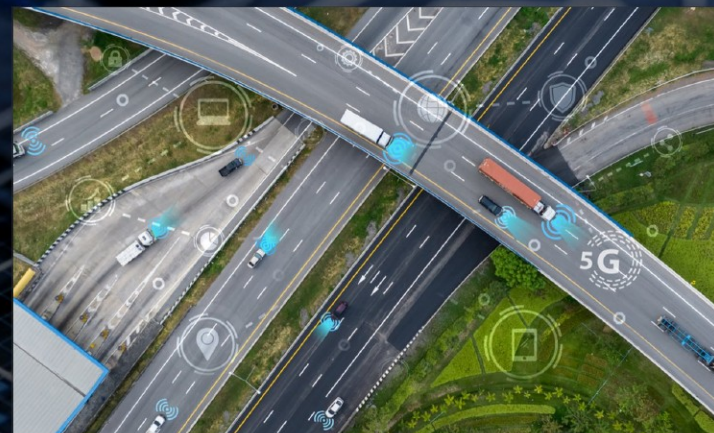


IMAGE RECOGNITION

## 画像認識プラットフォーム

Intelligence Design社等と推進する、エッジAI解析技術を用いた画像認識ソリューション。

中期経営計画「REFRAME THE FUTURE」と「AIカメラ1万台プロジェクト」構想に連動するAI事業戦略の中核

2030年に向けたストック型収益基盤の構築を加速

# なぜジェリービーンズグループか

機材販売の枠を超え、広告マッチングまで内製化できるグループ基盤が差別化の源泉



## 営業・メディアネットワーク

グループの営業網とメディア基盤で、導入営業からスポンサー誘致まで推進。



## 広告マッチングの内製化

配信映像の広告媒体化と仲介を自社で実装し、ストック型収益を創出。



## グループ事業シナジー

「361°」やプロバスケットチーム等のスポーツ事業と連携。



## 上場企業としての基盤

東証グロース上場の経営基盤と資金力で、継続的な事業投資が可能。



## IR・PRの発信力

グループのIR広報機能で、事業・実績を市場と地域へ的確に発信。



## 新規事業の実行力

多角的な新規事業を立ち上げてきた実行力で、スピーディに展開。

# 展開ロードマップ – 3フェーズで段階展開

「自社グループで実績をつくる → 外へ広げる → 媒体化して稼ぐ」 リスクの低い順に積み上げる



## PHASE 1 導入・実証

運用フロー・コスト・反響データを蓄積し、最初の実績を確立。

## PHASE 2 横展開

他チーム・大会・協会・行政・施設へ営業。施設は「常設導入モデル」にて提案。

## PHASE 3 媒体化・広告収益

配信映像を広告媒体化。JBGネットワークでスポンサーを誘致しストック型広告収益を確立。

# 今後の見通し

短期は実証と提供体制の確立、中長期はストック型収益の積み上げ

## PERFORMANCE

### 業績への影響

本サービスによる2027年1月期の業績に与える影響は精査中です。今後、適時開示の必要が生じた場合には速やかに公表いたします。

## MID-TERM

### 中長期の収益

広告マッチング・施設常設を軸に、ストック型収益を積み上げ。2030年に向けた収益基盤の構築を進めます。

## GROUP AI

### グループAI戦略

JELLY BEANS AI SOLUTIONとして、本サービスを軸にAI事業ポートフォリオの拡充を図ります。

地域スポーツの試合映像を、**収益コンテンツ**かつ**広告媒体**へ。選手・主催者・スポンサー・地域に価値を循環

## 将来予測・記載に関する注意事項

- 本資料に掲載されている将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づくものであり、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。
- 本資料に記載の料金・販売実績・導入事例は、株式会社NTT Sportict提供資料および公開情報に基づく参考値であり、確定値または本事業の収益を保証するものではありません。
- 具体的な収支計画（台数・稼働・案件数の前提）等は、今後の進捗に応じて確定し、必要が生じた場合に適時開示いたします。
- 本資料は適時開示「AIソリューション『STADIUM AI (JELLY BEANS AI SOLUTION)』のサービス開始に関するお知らせ」の理解を補助する目的で作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。



STADIUM AI  
JELLY BEANS AI SOLUTION

その一試合を未来へ残す。

株式会社ジェリービーンズグループ（東証グロース：3070）

運営：株式会社ジェリービーンズマーケティングラボ